

## 令和7年度第3回下田市総合教育会議 会議録

開催日時： 令和8年3月28日（木）11時00分～12時00分

場 所： 下田市立中央公民館 大会議室

出席者：

### 【委員】

市長	松木 正一郎	教育長	山田 貞己
教育委員	宮川 大輝	教育委員	宮内 慎也
教育委員	西川 紀栄	教育委員	佐藤 知佐子

### 【事務局】

学校教育課			
課長	平川 博巳	参事	宇仁 猛
学校教育係長	稲葉 元紀	こども育成係長	渡邊 貴裕
生涯学習課			
課長	増山 順一郎	図書係長	鳥澤 早斗子
		社会教育係長	坂部 琢
企画課			
課長	平井 孝一	企画調整係長	鈴木 浩之
主事	藤原 佑紀子		

傍聴者： 報道関係2名

1 開会 11:00

2 あいさつ

・市長

人口減少という社会状況を厳守に受け止め、適応対策をしていかないとならない。縮小化社会をどのように設定するか、突きつけられている課題である。特に教育は最重要課題のひとつだと捉えている。

・教育長

教育職員の業務量管理計画は、総合教育会議にて報告していくことが義務付けられた。図書館と教育大綱については、これまで様々な議論や市民意見を聞いた中での計画である。皆さんにご確認いただきたい。

3 議題

### 【議題1 下田市総合教育大綱（案）について】

■説明（教育委員会学校教育課 宇仁参事）：

9月30日、1月28日の2回の総合教育会議で協議した教育大綱について、3月5日からパブリックコメントを実施した。3名の方から、教育理念、校正、イラスト等の利用について、また、平和教育や包括的性教育など細部にわたるご意見を賜った。

新しい教育大綱は、個別施策を網羅する実施計画ではなく、教育分野全体の方向性を示す上位方針として位置付けていることや、現行の教育大綱を継承し、市民に広く共有されることを目的として視覚的な工夫も取り入れたことを説明し、また、文字の見辛さについても改良した。豊かな自然環境の中で、子どもも大人も、ともに学び合い、「地域ぐるみ」で子どもたちの成

長を支え、【「好き」を伸ばし 未来を創る】という教育理念が子どもも大人も市民の皆さまの合い言葉となり、下田らしいあたたかな教育を推進していきたい。

■ 質疑、意見等

・ 企画課長（司会）

ご承認いただき、教育大綱とする。

【議題2 下田市立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について（報告）】

■ 説明（教育委員会学校教育課 宇仁参事）：

教職員が働きやすく、働きがいを感じられる環境を整え、子どもたちへの良い教育を実現するために策定するものであり、令和7年6月に公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法が改正されたことに伴い、文部科学大臣が定める指針に則して、教育委員会に計画の策定と公表が義務付けられた。

令和8年度からは個別面談の実施内容の充実や個人の時間外在校等時間の周知・把握等、学校と教育委員会とが力を合わせ、教育職員のより働きやすい環境を整えていくことがこの計画の目的とし、今後は校長会、定例教育委員会、そして総合教育会議で取組の進捗状況、評価結果を報告していく。

■ 質疑、意見等

・ 佐藤委員

教頭先生をはじめ、中学校の先生方の勤務時間が多いと感じる。今後は集計して報告することのことだが、把握した情報を教育委員会は学校とどのように連携を図っていくか。

・ 学校教育課参事

時間外勤務時間については、毎月報告を受けているが校長会での共有はしていない。各学校の校長先生が管理し必要に応じて指導・助言していただいていた。今後は校長会、定例教育委員会、そして総合教育会議で報告することで、市全体で各学校の状況を共有しながら見守っていく体制にしていく。また、評価面談に合わせて健康面の確認、やりがいアンケート等、聞き取りしながら対応していきたい。

・ 佐藤委員

勤務時間と働きがいの兼合いは難しい。

・ 教育長

働き方改革と言われる中で、管理職が管理をし、目立った職員については会議で取り上げてきたが、なかなか良い得策が見つからない。しかし、実際数字を出してみると少しずつ改善されており、改善が見られた学校の対処方法を各学校へ共有することを今後更にやっていかないとならない。

時間を気にすることで、子どもから目が離れたり、すべき活動が削減されるなど、本末転倒にならないようにしたい。

・ 市長

教育現場の環境が過酷になっていることは数字だけでなく傍目で見ても感じている。

先生たちは様々なプレッシャーを受け、社会的な厳しい目がある一方で業務量が増えている。本来あるべき教育というものが脇に逸れていると感じる。若者たちが憧れる仕事ではなくなっている。先生たちが教育しやすい環境にすべきである。

教育大綱にこのような理念を入れてはどうかと思う。

- ・教育長  
理念については、調整します。
- ・宮内委員  
教頭先生の勤務時間が突出している。地域とのパイプ役も担っており大変な業務である。教頭2名体制することで職務分担する考えはあるか。
- ・学校教育課参事  
基本的に2名体制は難しく、特別な場合に限られる。  
中学校は部活動が土日にあることから事故等が発生した場合に対応できるよう勤務している。教頭先生の使命感の強さからであるが、そういうところも改善していけたらと思う。
- ・教育長  
校長先生が出張が多いことが理由で2人体制になることはあるが難しい。  
子どもが通学する時間には学校に出勤していることは、通学中に事故が発生した場合等、連絡が取れるようするために避けられない問題もある。また、女性管理職を増やす傾向ではあるが、このままでは今後成り手が不足する可能性もある。
- ・宮川委員  
地域の人材バンクの整備はしているか。積極的に関わる人がいると助かると思う。
- ・学校教育課参事  
各校にコミュニティスクールを立ち上げており、地域とを繋いでいる。  
今後は下田市を取り巻いてコーディネートできるような人材が必要になってくると思う。
- ・教育長  
コミュニティスクールは発展途上である。人材バンクの名簿は出来ているので、どのように活用していくかが今後の課題である。また、教頭先生に代わるコーディネート役が必要である。地域と一緒にやろうという仕組みが出来つつある。

### 【議題3 図書館複合社会教育施設の整備について（報告）】

#### ■説明（教育委員会生涯学習課 増山課長、鳥澤図書係長）：

- ・生涯学習課長  
図書館複合社会教育施設の整備に係る基本構想と基本計画が概ねまとまったことから、進捗状況及び図書館機能の考え方を報告する。
- ・図書係長  
「未来の下田図書館」という発想で、中央エリアに中核的拠点を整備し、小さな拠点を周辺エリアに分散させ、まち全体で図書館となるという発想をもとに、複合施設の整備を進める。また、求められる複合施設の姿としては、「世代を超えた交流の場」や「子どもたちの居場所」となるような中核的拠点としての複合施設であり、この中核的な拠点の整備で、まち全体が図書館となる仕組みづくりを進めていくことで整理していきたい。

#### ■質疑、意見等

- ・宮川委員  
学校の図書室は小さな拠点に含まれるのか。一般の人も利用できるよう検討されているのか。
- ・図書係長  
将来的にはそのような活用も考えていきたい。

・教育長

下田中学校の図書館は別棟になっていて出入口もある。いずれは市民も活用する方針。

・生涯学習課長

少なくとも学区に1箇所は設置するイメージであるが、学校の図書館を活用することは様々な課題があることから、学校や図書館司書と連携し地域に展開していきたい。

・市長

学校図書館の地域解放という考え方はとても良い。

・佐藤委員

幅広いサービスや居場所の提供は必要であるが運営は難しいと感じる。図書館だけだと人が集まらないので、どんな魅力を付け加えていくかが課題である。魅力ある拠点として、少しずつ段階を経ていくべき。

・生涯学習課長

可能な限り、単なる図書館ではなく、まちづくりの拠点となることを目標としたい。

・教育長

数年前から日本大学の学生、高校生や中学生からアイデアをもらっており、良い図書館が出来たと言ってもらえると期待している。今の図書館にはないものができると思う。

・市長

喫茶コーナーがあるだけでも大きく違う。今あるものを最大限に利活用する考えはリノベーションの醍醐味。新しい価値をつくり、それはリノベーションすることで生まれる、というところに社会的意味もあると思う。

リスク保有型施設とは何か説明してもらいたい。

・生涯学習課長

津波浸水域に人が集まる場所を設けることから、その対策は必須であり、計画の中で考えていく必要がある。備えは必須であること、また利用者の安全確保を優先することから記載したものであるが、今後も検討は必要である。

・市長

データとして確認をした上での対応をしっかりと記載してもらいたい。